

イギリスの就学前・初等音楽教育における歌唱技能の発展的カリキュラム —2021年改訂版音楽教科書を対象として—

小松原 祥子（神戸女子短期大学）

イギリスでは就学前教育施設及び個人の保育者に義務付けられている統一した法令カリキュラム Early Years Foundation Stage (以下 EYFS) が 2008 年に導入され、最新版では 2021 年に改訂が行われている。初等学校以上では 1992 年より音楽科ナショナル・カリキュラム (Music in the National Curriculum、以下 MNC) が導入された。最新版である 2013 年告示版では従来あった到達目標のレベル分けは示されず、簡略化された学習内容となった。

EYFS の教育プログラムのガイダンスとして、音楽に関しては 2018 年に『音楽的発達に関する事項 *Musical Development Matters* (2018)』が提示され、“A Unique Child” を前提として月齢に即した音楽的学びと環境構成が示された。鈴木 (2018) はこの 2018 年版と EYFS 「人間としての個人的社会的感情的発達」との関連性に注目している。2021 年には『発達の課題 *Development Matters*』(2021) の「表現芸術及びデザイン」の中に 0-3 歳、3-4 歳、レセプションクラスの段階ごとに「子ども達が学ぶであろうこと」「支援の例」がよりシンプルに示された。インクルーシブ教育の観点からあらゆる子ども達を対象とした 2021 年版にも掲載されている表現の技能として顕著なのが、歌唱のピッチマッチ (音程を合わせる) の技能である。

鈴木 (2017) はイギリスの音楽教科書キーステージ (KS) 1 のクロスカリキュラムの観点と教科としての音楽について論じているが、歌唱の技能には着目していない。

また、イギリスのペインター&アストン(1970)の『音楽の語るもの *Sound and Silence*』による創造的音楽学習 (Creative Music Making) の理念は日本にももたらされ、2017 年告示の小学校学習指導要領「音楽」にも「音楽づくり」の領域が設定されている。しかしながら、近年のイギリスの就学前・初等音楽教科書にどのような影響があるか、具体的な分析はなされていない。

従って本発表では歌唱技能に焦点を当てた題材に着目し、*Kickstart Music*(2021) の就学前から初等学校 KS 3 (9-11 歳) までの教科書分析を行い、「音程 (Pitch)」や「歌唱 (Singing)」単元における創造的音楽学習の観点を示し、音楽づくりの技能を養うための歌唱技能の発展的カリキュラムとはどのようなものかを探る。*Kickstart Music*(2021) では「聴取 (Listening)」「リズム」「動き」「音程」「音と創造力 (Sounds and Invention)」¹の単元全てにおいて音楽の要素を軸として音楽づくりへと向かう方向性が見られる。

<註>

¹ 就学前では「音程」「音と発見」ではなく「歌唱」「探求」「創作」で構成されている。